2023年度国際ユース作文コンテスト
【子どもの部】 入選

正義とはなにか

（原文）

寒河井　創将（14歳）
東京都
東京都大田区大森第六中学校

　社会科の授業で、2つの問いが投げかけられた。
「正義とはなにか。」
「正義のために戦争は存在するか。」
僕は、次のように回答した。

　正義とは、自分が正しいと思っていること。「自分が」だから、人それぞれ正義は違うと思う。クラスには36人の生徒がいて、36通りの正義がある。世界には78億を超える人々が住んでいて、78億を超える正義がある。

　だから、ときに自分の正義と相手の正義が噛み合わないことがある。そういう時、人は喧嘩をする。もしそれが国だったら、その国同士は「戦争」をする。だから、A国とB国が戦争をしていたら、A国は「自分が正しい」と思って戦争をしているし、B国だって「自分が正しい」と思って戦争をしている。したがって、正義のための戦争は存在すると思う。逆に言えば、どちらも「自分が正しい」と思ってやめないところが「戦争」の恐ろしさだ、と僕は考えている。

　しかし、この回答を友だちに見せたとき、友だちは驚いていた。「正義のための戦争なんかあるわけ無いじゃん」と、言われた。友だちの回答を聞いたが、僕は理解できなかった。口には出さなかったけど、僕のほうが論理もしっかりしていて正しいじゃん、と思っていた。そこで、僕は恐ろしいことに気づいた。

　これも、正義じゃないか？

　自分は確かに自分の回答に間違いはないと思っている。でも、それは相手も同じなんだろう。相手だって自分の回答に自信を持っているし、だからこそ僕の回答に驚いたんだ。そう思うと、僕は冷や汗をかいた。「独りよがりの正義を振りかざしているから、戦争は恐ろしいんだ」と、ついさっきまでそう考えていたのに、気づかぬうちに自分自身が独りよがりの正義を相手に押し付けていたのである。

　今、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとし、世界各地で様々な争いが起こっている。僕たち若者はその光景をテレビで見ても、「募金」とか、一時的な支援しかできなく、根本的な解決には一部の大臣とかしか関わっていなくて、若者には何もできることがない。だから、若者にできることは、一瞬少ないように見える。でも、それは間違いだ。なぜなら、僕たち若者は、「未来を変えられる」という、最大

のアドバンテージにして、最大の責任を背負っているからだ。平和な未来を創ることも、戦争だらけの未来を創ることも、僕たち次第なのだ。

もちろん、平和を望んでない人はいないだろうが、じゃあ平和のために何かしよう！と思うと、漠然としすぎて何をすればいいのかわからない人が多いだろう。では、僕たちが平和のためにすぐ実行できる身近なこととはなんだろうか。ここで僕が大切だと考えているのが、「自分と相手の正義のズレを認める」ことだ。相手の正義を肯定的に見てみたりだとか、自分が苦手な人でもその人の正義をよく聞いてみるとか、あるいは何か相手と対立があったときに、真っ先に手を出すのではなく、自分の正義と相手の正義を共有して、なんとか理解する努力をしてみるとか・・・。「正義」という言葉から考えを広げることによって、僕たちに出来ることがどんどん見つかってくる。「正義」は時に厄介になるが、しっかり正義について考え、理解を深めれば、頼れる味方にもなるのだ。正義と平和は、繋がっているのである。

結局、平和への近道とか、そんなものはなかなかない。世界規模で見たらほとんど見えないくらいの小さなことだけど、その小さな小さな「気遣い」の積み重ねが、平和な未来への長くとも確実な道だと思う。

正義は、皆それぞれ違う。そのことを自分の根本として、いや、未来を担う若者の根本として、平和な未来を築き上げていきたい。